



えがお 愛顔つなぐえひめ国体 みきゃん通信

問 鬼北町国体推進室 内線4203・4204

No.6

民泊を実施するにあたり、業務を分担して行うための組織のことを「民泊協力会」といいます。

行政区単位で民泊協力会を組織し、1民泊協力会(行政区)あたり1チーム(約17名)の民泊を受け入れていただきます。国体に出場する少年女子バレーボールチームは、24チームありますので、町全体で24の民泊協力会が必要となります。

鬼北町では、食事(朝食・夕食)は集会所・公民館等で共同調理により提供し、宿泊・入浴は一般家庭で行う「共同民泊」を行います。

一般家庭ではなく、集会所等での宿泊はできないのかということをよく聞かれますが、町内の集会所は、チーム全員が宿泊できるような大きな集会所ばかりではありません。来町する全チームに

同じ条件で宿泊してもらう必要がありますので、全てのチームに一般家庭に宿泊してもらいます。また、集会所等で宿泊するよりも一般家庭に宿泊したほうが、選手とより深い交流ができると考えています。

民泊協力会を立ち上げる際の条件としては、競技会場(鬼北総合公園体育館)から選手の食事・ミーティング会場となる集会所等までの所要時間が、自動車で30分以内とされています。距離の制限はありません。

基本的には、行政区単位で1民泊協力会を組織することとしていますが、2つ以上の行政区で1つの民泊協力会を組織することや、組単位で組織することも可能です。

民泊の思い出

今回は、兵庫国体の銃剣道競技で民泊を実施した宍粟市の民泊協力会の方の感想をご紹介します。



年度当初は大丈夫かと漠然とした不安を抱いておりましたが、6月頃から少しずつ具体的な会議があるうちに、なんとしても無事故で成功させなくてはとの思いで、ますます不安と責務の大きさを感じるようになりました。そんな中で受入県も決まり、準備も秒読み段階に入ると、我が自治会での総力が会長さん中心に結集され、多くの人たちのご協力と熱意で、選手団を迎え、お世話させていただくうちに交流の輪は大きく膨らみました。そして、応援に訪れた会場の凛とした雰囲気。「これこそ国体だ」と肌で実感いたしました。

一人の力は小さくても、皆集まればすごい事が出来るものだと言われました。当自治会でも、目標を持つことでこんなに自治会が一つになれたことから、心のつながりの大切さを学びました。慰労会での民泊家庭の方々から、「機会があればもう一度受け入れたい。来年の国体も応援に行く」のお言葉、それぞれよき思い出として残り続けることでしょう。

国体民泊受入成功もさることながら、地方分権が進むなか、小集団活動の原点である自治会で、多くの人との交流が深まったことが、一番の収穫だったと確認いたしました。

えがお

愛顔つなぐえひめ国体鬼北町実行委員会からのお知らせ



新たに8つの民泊協力会が誕生！(平成27年9月11日現在)

これまでの広報でお知らせした8つの民泊協力会に続いて、「清延民泊協力会」(清延/好藤地区)、「奈良下組民泊協力会」(奈良下/近永地区)、「日向谷・上鍵山民泊協力会」(日向谷・上鍵山/日吉地区)、「上川民泊協力会」(上川/泉地区)、「下鍵山1民泊協力会」(下鍵山/日吉地区)、「下鍵山2民泊協力会」(下鍵山/日吉地区)、「興野々民泊協力会」(興野々/泉地区)、「芝民泊協力会」(芝/近永地区)が設立されました。これで合計16地区となりました。各地区の皆さん、ご協力よろしくお願いたします。